

# 漆を“感じる”空間

A2201105 一重 朋花

## 研究概要・背景

最近では漆を使用した食器や装身具、家具など、多くの分野から現代的で独創的な物や漆をより身近に感じることができるような物が新しく提案されている。このように様々な分野からの新しい提案は漆の認知度の向上、更には固定概念の払拭にも繋がると考える。

また漆を身近に感じることの出来る物の多くは日常生活の中で手軽に使用することができ、また実際に身に着けることが出来るものが多い。私はそれらに共通することは漆を“物体”として認識し使用していることであり、漆を“空間”的に認識し漆を“感じる”ことで違った視点で漆を身近に感じることが出来ると思った。そこでインテリアの分野から、漆を“空間”で感じるという提案をしたい。

## 研究目的

- ・インテリア分野から提案をすることで、漆の認知度・関心の向上に繋げる。
- ・漆を“空間”的に演出し、漆を“感じる”ことが出来るような作品を制作する。  
(現代のライフスタイルに沿ったものであり、日常生活の中で自然に使用される家具の制作。)

## 制作過程

アイデアスケッチ・デザイン決定



テーブル      照明      カーテン

木地制作

木固め

布貼り

目摺り

下地工程

下塗り

中塗り

上塗り



仕上げ・組み立て

【照明の木地制作】



## 【テーブルの制作工程】



木地完成



木固め



布着せ



目摺り

## 考察・感想

インテリアについてアンケート調査を実施し、その結果から漆を用いた家具を制作しインテリア分野から漆への提案と漆の関心の向上に繋がることが出来たのではないかと思います。

また今回漆を“感じる”空間という研究テーマであったが、空間的に漆を感じるという行為は研究を進めていく上で困難な面もあった。制作物としてのインテリア家具は“物体”であるため、“物体”として家具を認識し使用していることになる。それでは既存の漆で作られた家具との差がはっきりしないように思われる。この制作では“物体”であるインテリア家具を使用し“空間”的に演出することまでを研究の一環として考え、インテリアに対するアンケートを元に、統一されたデザインでの各家具を製作するという形での提案として“空間”づくりを意識したが、最終的に、私が考える“空間”が演出できたかの検証が必要であったと思う。加えて完成した作品をディスプレイした部屋をさまざまな人に見てもらい、作品や演出についてどう感じるかについてもアンケート調査を実施していればよりはっきりとした結果につながったのではないと思われる。

私はクラフトゼミで木地づくりや漆の制作技術を学んできたが、今回の研究でその技術を活かし作品を完成することが出来た。またインテリアは私にとっては初めての分野であり、分からないことも多く基礎から学びながらの研究となった。作品も大きく数も多かったため大変であったが、自分が考えたテーマで作品を制作することは楽しくやりがいがあった。